



# 市民が主役のまちづくりを 布目ゆきお市政直行便

## 2019年新春号 NO.50

[編集・発行]  
長野市議会議員・布目裕喜雄  
布目ゆきお後援会  
長野市安茂里小市 1-4-10 ☎227-3537

# 希望と安心をつなぐ2019年に

# 幸せ実感できるまちづくり…5つの課題

- ① 脱格差へ、暮らしのセーフティネットを確立
- ② 子育て支援先進都市へ、負担軽減の拡充
- ③ 医療・介護の充実、健康寿命の延伸へ
- ④ 市民の足を守る、公共交通優先のまちづくりへ
- ⑤ 災害の備え万全に、減災のまちづくりへ



昨年12月議会の代表質問より

社の充実、健康寿命の延伸、子育て支援・教育環境の整備、貧困・格差対策の拡充、公共交通の維持存続、安定した雇用の実現、公共施設の縮減・再配置などなど課題山積の長野市政。

二元代表制のもと、市民が市政に求める課題解決に真正面から向き合い、厳しく市政をチェックするとともに市民の暮らしに寄り添った政策提言に力を尽くす所存です。

### ◆問われる学生のまちづくり

本年4月には、長野保健医療大学と清泉女学院大学に看護学部が新設されます。昨年の長野県立大学開学と相まって、大学との連携、学生にとって魅力的なまちづくりの本格化も問われます。

### ◆非戦・憲法9条を守り抜く

2019年は、「憲法改正」が重要な政治課題に。憲法の問題は暮らしの問題です。9条は変えない！立憲・民主主義を取り戻し、「二度と戦争をしない、させない」と誓った平和憲法の原点に立ち返り、命をつなぎ、「戦後」時代を継承し続けたいものです。

### ◆市議5期目に決意新た

今秋には市議会議員改選を迎えます。安茂里地域を原点に、幸せ実感できる長野市政の実現をめざし、5期目に挑戦する決意です。初心を忘れず、グローバルに考え、ローカルで行動する所存です。

本年も変わらぬ叱咤激励をお願いします。皆様のご多幸とご健康を心よりご祈念申し上げます。

### ◆「災」から「福」へ

平成の時代から新しい時代につながる節目の年、2019年が幕を開けました。昨年の漢字は「災」、地震や豪雨といった自然災害が相次ぎ、減災が喫緊の課題になっています。さらに異常気象による災害的な猛暑への備えも急がれるところです。

災い転じて福となす…今年の漢字が「福」となるよう、暮らしに希望と安心がつながる明るい良き年にしたいものです。

### ◆市民の声に寄り添う市政を

加藤市政2期目の折り返し地点。人口減少、少子・超高齢社会のもと、市民に身近な市政が果たすべき役割や責務がますます重要となっています。

住み慣れた地域で住み続けられる医療・介護・福

## 12月市議会 代表質問より

# 交通・福祉・子育て・雇用を重視 市民の声とズレがないか検証を

12月市議会定例会で初めて代表質問に立ちました。加藤市長の市政運営の基本姿勢や水道の民営化に対する考え、児童センター・こどもプラザの職員配置基準の緩和問題、少子化に対応した「新たな学びの場」の在り方、さらに公契約条例や自治基本条例の制定に対する問題意識を質しました。

### 賑わいづくりには熱心だが…との声

加藤市政に対して「イベントや祭りなど賑わいづくりには熱心だが、市民の厳しい暮らし向きにもっと目を向け応えてもらいたい」との声が聞こえてきます。

直近の長野市まちづくりアンケートでは「住みよい長野市をつくるために、特に力を入れるべきと思う施策は何か」の設問に対し、「バス・鉄道など利用しやすい公共交通の構築」が33.6%で1位に。次いで、「介護などの高齢者福祉サービスの充実」32.4%、「結婚、

妊娠、出産、育児への継続的支援」26.2%、「子供が安心して学べる支援体制の充実」21.2%、「市民ニーズを踏まえた行政サービスの提供」18.3%と続きました。

### 市民が求める施策優先度にメリハリつけ応えるべき

すなわち、公共交通を軸としたまちづくり、高齢者に温かいまちづくり、子育て・子育てを大切に支援するまちづくり、市民が主役となるまちづくりの推進です。

このアンケート結果を、市民の皆さんの行政施策に対する不満或いは不安の裏返しとして真摯

に受け止め、市民の施策優先度にマッチしたメリハリの利いた施策展開こそが市政への信頼度を高め、幸せを実感できるまちづくりの支えとなります。

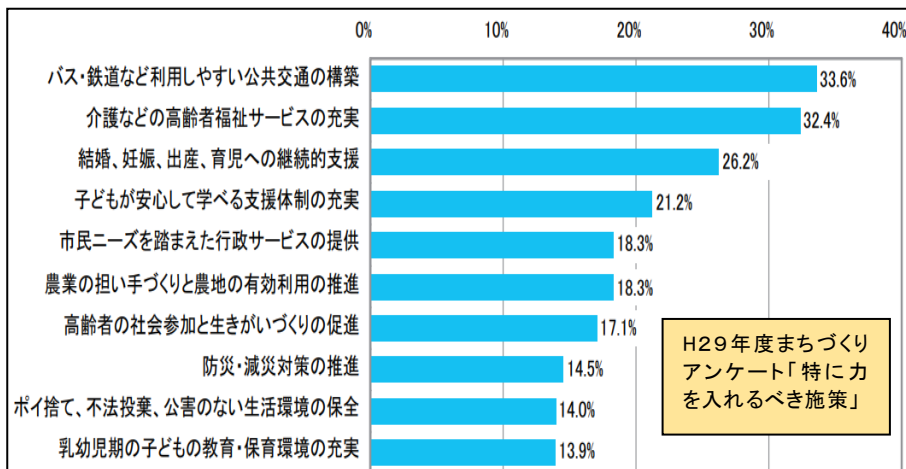
第五次総合計画の具体化及び新年度予算編成において、市民の求める施策展開、市民感覚とズレがないのか検証し、市民の求める施策優先度にメリハリをもって応えるべきと質しました。

### 市長…アンケート結果を念頭に新年度予算に反映

市長は「アンケート結果を全庁的に共有し、各部局の予算編成に活かすとともに、年明けの予算の市長査定では、アンケート結果を念頭において査定を行い、新年度に予算に市民の声を反映していく」と答弁しました。

遠回しに「市民感覚とのズレはない」とする答弁ですが、如何でしょうか。私は市民の暮らし向きに寄り添った施策展開がもっと必要だと考えています。

3月市議会定例会に提案される新年度予算案を厳しくチェックしたいと考えます。



## 水道事業の民営化を質す…安心の水を守る

昨年12月、水道法が「改正」されました。改正法の問題点は、市町村が担う水道事業に「コンセッション方式」を導入し、水道民営化に大きく舵を切ることです。

### 民営化を選択肢とするな

コンセッション方式では、民間事業者が運営権と料金徴収権を保持することから、市民の大切な生活インフラである水道を、利益重視の競争原理にさらしてしまうこととなります。水道民営化を導入

した世界の多くの自治体では、水道料金の高騰等により、再公営化が相次いでいます。

本市として、コンセッション方式の導入は選択肢としないこと、市民生活に不可欠な水道事業を民営化しないよう迫りました。

### コンセッション方式…「現時点では検討しない」と答弁

上下水道事業管理者から「水道に関する技術を職員が継承し、組織の中で技術力を高め行くこ

とを重視しており、水質等の安全性の確保や災害時等のリスク対応力といった観点から、

現時点では直ちにコンセッション方式導入の検討は考えていない」との答弁を引き出しました。将来にわたり、水道料金の高騰を招く民営化を進めないよう引き続きチェックします。



## 放課後子ども総合プラン…職員配置基準の堅持を求める

### 国…基準撤廃の方針示す

厚生労働省は昨秋、放課後児童クラブ、すなわち、長野市の児童館・児童センター・子どもプラザの職員配置や資格の基準を事実上撤廃する方針を示しました。

### 1教室に職員1人が可能に

現行基準では、1教室に職員2人以上で、そのうち1人は保育士や社会福祉士などで、かつ県の研修を受けた支援員の配置を決め「従うべき基準」としています。これを「参酌すべき基準」に緩和し、事実上、研修を受けていない職員一人だけでも対応することが可能になるといいます。

### 現行基準の堅持を

私は放課後子ども総合プランの有料化に反対してきました。今回の基準撤廃は子どもたちの放課後の安全な居場所の質を決定的に低下させるもので容認でき

るものではありません。

放課後子ども総合プランの運営にあたり、現行基準を堅持し、プランの質の向上、支援員の処遇改善にしっかり取り組むよう強く求めました。

### 市長…「有料化で質の確保を約束、安全確保を最優先」と答弁

こども未来部長の「今後の法改正や省令を確認したうえで、子どもたちの安全が確保できる体制を最優先に考える」との答弁に満足できず、部長と市長に再質問。

結果、部長からは「基準緩和の動きがあるが、子どもたちの安全が確保できる体制を最優先に考えていく。ここが一番大事」との答弁を引き出し、市長からは「有料化にあたり質の確保をしっかりする約束をしてきており、安全を確保できる体制を最優先に考え



ていく」との答弁を得ました。

国の法律が変わろうとも、行基準に基づき、子どもたちの最善の利益のために児童センター・こどもプラザのしつんが確保されるよう、引き続きチェックしていきます。

### 有料化の影響を検証し、プランの見直しを追求

また、有料化によって児童センターやこどもプラザを利用できなくなっている世帯の現状を検証し、放課後子ども総合プランの見直しも引き続き追求していきたいと考えます。

## 小・中学校…少子化に対応した「新たな学びの場」を質す

「少子化に対応した子どもにとって望ましい教育環境の在り方」を審議してきた「活力ある学校づくり検討委員会」が答申した『審議のまとめ』について、市教委は答申を尊重し取り組みを進めるとしています。

『審議のまとめ』について、中学校区単位の説明会に取り組み市民と課題を共有していくこと、さらに「発達段階に応じた新たな学びの場」の具体を早期に示し市民的な議論を深めることを提唱しました。



### 学校の存続と発達段階に応じた集団の学びを両立

『審議のまとめ』のポイントは、小学校6年間と中学校3年間を連続した9年間ととらえ、小学校低・中学年期における「個の育ち」、小学校高学年期における「集団の中での育ち」、中学生期の「自立への育ち」といった「発達段階に応じた新たな学びの場」が必要であること、そして「新たな学びの場」を「できる限り地域に学校を

残したい」との観点と「多様性ある集団の中での学びを創る」観点の双方から創造していきたいといった考え方を打ち出したことにあります。私はこの考え方に基本的に賛同しています。

### 小学校低・中学年だけの学校とは？

私が注視している点は、教育委員会が答申を踏まえ、小学校1年生から4年生について「地域の見守りの中で育つことや通学距離の問題も配慮し、児童数が減少した場合には、低・中学年だけの学校も考える」との具体的な方向を示したことです。小学校5・6年生の高学年は中学校区単位で統合授業とする考え方です。

私は一つの考え方として「有」だと考えています。しかし、重要なことは「新たな学びの場」のメ

リット、デメリットを具体的に市民に提示し議論を深め合い方向性を共有していくことです。市教委としての取り組みを質しました。

### 教育長…市民の理解が深まる中で具体像が明確に

教育長は「新たな学校の形態については、今後、各地で未就学児の保護者をはじめ、市民に説明し理解が深まる中で、具体像が明確になってくるものと考え」と答弁、市教委としての主体的かつ積極的な具体像の提示には消極的な姿勢にとどまりました。

理想とした「新たな学びの場」の具体像がたたき台として提示されなければ、市民の合意形成はままなりません。教育委員会の主体的な取り組みが問われます。

【写真は芋井小学校の授業より】

## 小中学校へのエアコン整備に 24億円、早期完全整備へ

小中学校のエアコン整備事業24億円が盛り込まれた12月補正予算が可決。今年夏までに30校の教室に整備、来年夏までに残り30校分での整備が進むことに。

地域によってはまずは小学校1年生の教室を優先する進め方になりますが、教育環境に不公平がないよう、完全整備をさらに求めていく所存です。災害的な猛暑から子どもたちをしっかりと守りたいと思います。

併せて、学校のトイレの改修も計画的に進められるようチェックしていきます。

## 公契約条例や自治基本条例の 制定を提案し続けています

12月議会の代表質問では、公共工事にあたり適正な労働賃金と工事の品質確保のための公契約条例やまちづくりの憲法と比喻される自治基本条例の制定を改めて求めました。先進自治体の調査が進められていますが、答弁は「引き続き検討する」というもの。実現に向け、具体的な提案につなぎ粘り強く取り組みたい課題です。

## ノーマイカー通勤運動… 4月から具体的な取り組みへ

公共交通を軸としたまちづくりも質問。今年4月から導入されるバスロケーションシステム(スマホで路線バスの位置を確認できる仕組み)を機に、「エコ通勤優良事業所認証制度をツールにしてノーマイカー通勤運動を具体化したい」と答弁。

渋滞解消、温暖化防止、健康増進に向けまずは一歩前進です。

## 性の多様性を認め合い LGBTの権利確立へ動き出す

9月議会で「LGBTなど性の多様性を認め尊重する人権施策の実施に関する請願」を全会一致で採択したことを受け、性的少数者の人権確立に向けた施策が始まりました。

さらに、同性パートナーシップ認証制度の導入をはじめ、性の多様性を認め尊重する当たり前の社会に向け力を尽くす所存です。

## 総務委員会・議会運営委員会、 まちづくり対策別委員会に所属

昨年9月議会の議会内人事で、常任委員会には総務委員会及び議会運営委員会に所属し、特別委員会ではまちづくり対策特別委員長を務めることに。

### 議会活性化検討委員は継続

議会活性化検討委員会委員は引き続き務めています。開かれた信頼できる議会の実現に向けて取り組む所存です。

## 市長に予算要望書を提出

昨年11月に改革ながの市民ネットで H31年度予算編成に向けた要望書を加藤市長に提出。226項目に及ぶ具体的な予算措置及び政策・施策の要望です。要望事項を前向きに検討し施策展開に活かしてもらいたいものです。



## 議員報酬の引き上げを返上 1年据え置きに

12月議会では、市長らの給料引き上げと議員の報酬引き上げが提案されましたが、議会として、議員の不祥事が続き、信頼回復の途上にあることから、議員報酬の引き上げを1年間据え置く修正案を全会一致で可決。

議員報酬引き上げ返上に向け働きかけてきました。市議会としてのケジメです。

**編集後記** ◆50号を数える直便、12月議会・代表質問が主な内容。詳しくはブログもご覧ください◆平成の亥年…「猪見て矢を引く」ことの無いよう、先を見越す先見性を磨き、課題解決に「猪突猛進」。皆さんの声に「イノ」一番で駆けつける初心忘れずに◆新年度予算を審議する3月議会は2月27日から。本会議・個人質問を予定。加藤市政に是々非々で厳しく臨みたく◆インフルエンザにご用心、ご自愛ください。(布)